

AMATA MIRAI

安全で快適なまちづくりの推進

安心して学び・暮らせる環境を整備

子育てと教育環境の充実

WAKU WAKU

女性や若者活躍できる社会の実現

MANGAプロジェクトの推進
M...Manga
AN...ANimation
GA...GAme

未来の静岡！
数多の未来！

Vol.6
2025.11

POSTCARD
左下から剥がしてください

— 6月定例会・可決した主な議案 —

令和7年度一般会計 6月補正予算

30億2100万円



令和7年度6月補正予算概要

■ 主な事業

・米関税措置の影響を受ける中小企業等への支援
9億2010万円

LPガス・特別高圧電力料金の高騰に対する支援
経済変動対策貸付の融資枠の拡大（新規）
輸出先分散やコスト削減など新たな取り組みを行うための
事業費への助成（新規）ほか

・その他 21億90万円

公立・私立高校等の授業料等実質無償化への支援
（所得制限撤廃）ほか

8月防災セミナー 報告

東日本大震災体験談

ヘドロと重油、津波と極寒を越えた10日間

講演者：安田淳 氏（現 石巻市内中学校 教頭）

東日本大震災の経験に基づき、南海トラフ地震や津波の想定される津波到達時間や、地震のあった当日や避難所で起きたこと、またその後の復興の話や私たちへのメッセージを話されました。講演終了後、質疑応答で、「災害対応が素晴らしい」との感想について、先生はとても悲しみ、こうおっしゃいました。

「みんな、生き延びるために必死だっただけです。良いも悪いもありません。目の前に大きな黒い水が迫ってきて、それが右に行くか、左に行くか、誰が分かるでしょうか？命を落とした人たちも、自分なりにベストだと思って判断して行動したはずです。あとから結果だけを見て評価するのはどうかやめてください。」

私はその言葉が忘れられません。

議会de質問



2025/9月

① コンテンツで地方創生

今や世界規模で大きな経済力となるコンテンツ産業を、国も地方に対しバックアップする体制であるが、県としてどう取り組むか。→答弁が静岡新聞に取り上げられました

② もくせい会館の利活用

老朽化やコロナ禍で一部施設が活用されておらず、地域からもレストランや休憩スペースの開放など要望がある。今後の有効活用策や誘客促進の方針について、県の見解を伺う。

③ 遺贈寄付への取り組み

遺贈寄付の意味は、大切な価値観や願いを未来へ託す自己表現である。県として、周知や相談体制の整備、手続き支援などの具体的な取り組み方針について伺う。

④ 自然保育・教育の推進

自然体験を通じた森林環境教育は、非認知能力や探究心を育み、健康や防災力、ふるさとへの愛着も醸成する。県内でのさらなる推進策と充実をどう推進していくか。

⑤ 学校でのフッ化物洗口の実施

学校一律の実施により健康格差を縮小できるが、教育現場での普及と保護者への理解促進について県はどう考える？

⑥ 生きづらさを抱える子供（ギフテッド）

生きづらさを抱える子ども、特に特異な才能を持つ子供（ギフテッドなど）について、教育委員会の考えを伺う。

動画



答弁はHPをご覧ください



料金別納
郵便



- 県政へのご要望、ご意見などお気軽にお寄せください。
- **送付先変更**ご希望の方、**送付ご不要**の方は、下記までご連絡くださいませ。

静岡県議会議員 **天野たみこ** 事務所

〒420-0832 静岡市葵区横内町89
TEL 054-295-5494 FAX 054-295-5495
Email amanotamiko1971@gmail.com



公式ホームページ

左下から剥がしてください

教育問題 2025

静岡市で新たに **R8年度** 「学びの多様化学校」新設！

※ 市教育委員会によると、市内の不登校の児童・生徒の数は、
2019年の1177人→23年の1948人と5年間で1.7倍に増加

不登校傾向の中学生を対象とし、静岡市立新通小学校内に、静岡市立末広中学校の分教室として2026年4月に開校予定です。この学校は、国が制度化して、総授業時間数の削減や始業時間の繰り下げ、個別学習室の設置など、生徒一人ひとりの心身の状態に配慮した特別な教育課程が編成されます。

県内初の試みとなるので、実施を通じて
県内各地に広がるといいですね！



学びの多様化学校
詳しくはこちら

MANGAproject

1 県議会一般質問 しずおかオシノミクス三本の矢構想

なんと！静岡県でも積極的に推進していくと
新聞にも取り上げられました。



WEBニュースは
こちらから

2 番組始まって以来の初の政治家ゲスト?!

SBSラジオのTOROアニメーション総研にゲスト出演！
テーマは、「アニメと政治」(9/1放送)。

radikoなどで配信
していますので、是非
ご視聴ください。



YouTubeでも
視聴できます

たみコラム (日々雑感)

「少子化」と「学校の在り方」におもうこと

戦後、「日本の公教育」の役割は、
急増する子供に対し
「短期間に・大量に・均質に」
学力と人材を供給する仕組みとして設計され、
その役割を見事に果たしてきました。

しかし、いま前提は反転しています。
少子化・高齢化、グローバリズム、
そして情報過多・AI時代の到来が
同時進行するなかで、教育の在り方も
大きく変わらなければいけない。

今、取り組むべきは「縮む数（人口減少）」と
「広がる多様性」です。
だからこそ、日本の公教育のあり方を見直し
「多様な強みを伸ばす環境づくり」と
「読み書き算盤の底上げ」、
「個別最適の学びの確保」を
同時に進める段階に入っています。

それには親や社会の意識改革も重要です。
少子化は痛みですが、一人あたりの
学びを豊かに再設計できる好機でもあります。

戦後復興を成し遂げた胆力をもう一度、
国の制度・自治体の裁量・学校と
地域の創意に配分し、具体の政策と
学校運営に落とし込む—
それが、これからの教育の在り方だと考えます。